

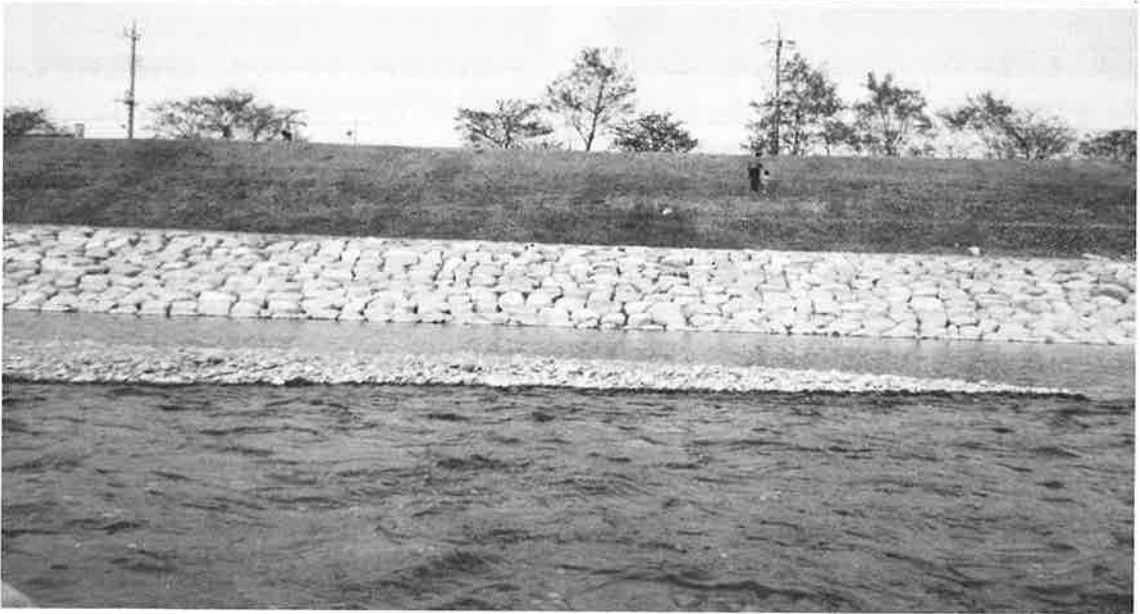
財団だより

# 多摩川

1992. 6 第54号



アゲハ (アゲハチョウ科)  
開張夏型120mm、春型80mm。キ  
アゲハに似るが黄色が薄い。食  
草カラタチ、サンショウなど。



## ■多摩川現風景■

多自然型護岸の事例 (府中市)

### (10) 多自然型川づくりモデル事業

聞きなれない「近自然河川工法」という言葉が耳に入るようになったのは5～6年前の事である。

スイスを中心とし西ドイツなどで河川や水路を自然に近い状態に戻そうとする運動で、河川管理者自らがその陣頭指揮をとり事業として始めたものである。幾何学的水路構造や人工材を排除し、形状も素材もなるべく自然に近いものを採用する。そして後は自然の復元を待つということである。

日本でもこの運動に呼応し、「多自然型川づくり」のモデル事業が建設省により推進されている。

この写真は、多摩川本川の府中市にお目見えした「多自然型護岸」で、自然石を積み、石と石の間にすき間を造り小動物の生息環境づくりもあわせて行なうようになっている。

多摩川では支川をあわせ、多自然型工法の導入

が図られようとしている。しかしながら、まだまだ解決されなければならない課題や技術が多く、今後の調査や実験データを積み重ねて行かねばならない。

### ●関連する財団の助成研究 (NOは報告書番号) 〈学術研究〉

- ①多摩川における河川空間の整備に関する研究  
篠原 修 東京大学 景観工学 1978 No.9
- ②河川環境に関する計画的の研究  
進士五十八 東京農業大学 地域計画 1982  
No.50
- ③多摩川をめぐる自然環境の保全・回復および利用計画に関する基礎的研究  
立花 直美 武蔵野美術大学 建築環境工学  
1984 No.73

## 多摩川散歩

### ●浅川——滝合橋から鶴巻橋へ

日野の自然を守る会 富士 堯

今回は、京王線平山城跡公園駅を下車、滝合橋を渡り、左岸に出て浅川をさかのぼることにする。

八王子市内を南東へ向けて流れてきた浅川は、滝合橋の少し上で大きくカーブし、流れの向きを北東へ変える。カーブの外側は低い崖になっており、シラカシ群集の断片が残っている。

流れには冬だと多数のカモが羽を休めている。

右手は「平山たんぼ」と呼ばれたが、年々新住宅の進出でむしばまれている。湧水を利用して、ホテイアオイを栽培している所があるが、ここから流出する小川には、アカウキクサやヒメウキクサが浮いていたり、インドヒラマキガイがいたりで、ここを歩くのは、帰化生物が気になる私にとってはひそやかな楽しみなのである。

水田をつぶして建てた滝合小学校。ここの校歌には「…浅川の堤いろどる月見草…」という一節があり、校章も月見草ということになっているが、ツクミソウは白花で、野生化はしない。この小学校ができた20年くらい前は、たしかにこのあたりの堤防にオオマツヨイグサがあったが、今はない。俗に月見草といっているのは、花の小さいメマツヨイグサばかりである。

長沼橋の少し先に、上村用水の取入れ口があるが、ここの堰は「さいかち堰」と呼ばれている。みごとなサイカチの木（マメ科）があるからである。このあたり、運がよければ、日野市の鳥であるカワセミにお目にかかれる。

川ぞいに北西へ。中込から大和田方面へ向う。右手の日野市側はまだ畑が多く、ヒバリがさえずっていたり、在来種のタンポポが幅をきかせたりしている。

途中、古い機屋さんの建物が残っている。窓には鉄格子がはまっており、ふと「女工哀史」などという言葉を思い出す。

中央線の鉄橋の少し手前は、大きなケヤキなどの大木が残っており、散歩には気持ちよい所だ。

畑、農家、住宅、苗圃、マンション…と新旧入りまじった中を歩いていると、家々の表札はいつのまにか日野市から八王子市大和田町へ。

八高線の線路の下をくぐる。2両編成のディーゼルカーが八王子へ向かって下っていく。一両は朱色、もう一両はアイボリーに青い帯。

対岸は八王子市。20年あまり前は八王子市のイーストエンドという感じで、アレチウリが大群落をつくっていたりしたが、今は整備されて、北野清掃事業所やオイルターミナルになっている。

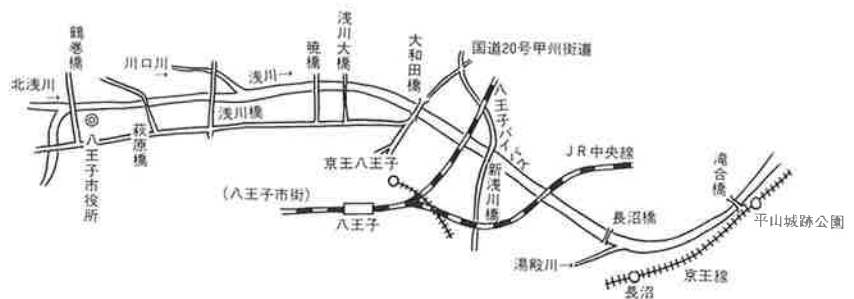
あとは浅川は街なかの川という感じで、両岸には家々が建てこんでいる。川原の草も気のせい、弱々しい。子どもが水辺に降りて何かのぞきこんでいる。

国道20号（甲州街道）は大和田橋を渡る。橋のきわには12階建のマンションが建ち、夕暮れ時など、そのシルエットはちょっとモダンで、当地出身の松任谷由実の「ハルジョオン・ヒメジョオン」を口ずさんだりしてみる。

あとは暁橋、浅川橋、萩原橋と、川と家の間を足早に通る。右手から川口川を合わせ、さらに鶴巻橋のあたりで北浅川を合わせる。対岸に八王子市役所の庁舎。

ここまでくると、高尾や陣馬の山々もぐっと近くなる。明日も良い天気らしい。

(案内図)



## 私と多摩川



武蔵野の路による土手の改造

杉本 恭子〈みんなの土手の会〉

一昨年冬、狛江市の「武蔵野の路」という名の多摩川土手改造工事に対して、多摩川を愛する人たちと〈みんなの土手の会〉を結成、「待った！」をかけたことから土手とのつきあいが始まった。

「武蔵野の路」事業は都が出資し、地元自治体が企画運営するもので、狛江市の計画は堤防を盛土拡幅して、サイクリング道路と歩行者用道路を作り、土手斜面には芝生を張り、土手裾に植栽ブロックを三段に積みサツキを植えるというもの。比較的自然の残る狛江市の土手らしい土手を、どこにでもある公園みたいに造り変えるとは。貴重な植物の移植にきた市職員は住民にとり囲まれ、なぜ住民がそんなに怒るのか理解できないようすであった。事前に広報での発表もなければ、住民への説明会もない。住民が知った時は工事着工寸前であった。寒い2月の朝、土手のパワーショベル前での座り込み、旋回するパワーショベルの鉄の歯めがけてとびかかろうとした女性もいた。第1期工事は修正して強行されてしまったが、第2期工事はストップしている。〈みんなの土手の会〉が市議会に出した「武蔵野の路」計画の見直しと市民参加を求める陳情は、今も継続審査中だ。

何とか〈みんなの土手の会〉とすり合わせをして、工事を進めたい市当局は「武蔵野の路」話し合い会を提案してきた。広報で話し合い会のメンバーを公募し、今までに2回の話し合い会が持たれたが、市民との間の溝は簡単に埋まりそうもない。この反対運動の過程で、建設省のスーパー堤防構想が背景にあることがわかったり、いろいろ



会員によるカラムシ摘み

勉強することの多い目まぐるしい一年間であった。

わたしは筑波山を望む、「隣のトトロ」と同じ田園風景の中で育ったくせに、ヘビ・ミミズの類いは苦手、アウトドア派でもなし、自然保護派とかエコロジストというでもない。川に関心を持ったきっかけは5年前、野川サイクリングロードをよく利用していた時、たった20kmの川なのに、自治体や流域住民の意識や関心の度合いによって、フェンスの高さや河川管理の内容が違うのに興味を持ち、「野川レポート」を作った。この過程で三多摩問題調査研究会を知り、啓蒙された。行政と一緒に野川を歩いたり、川の勉強を始めた矢先だったので、よけいに多摩川「武蔵野の路」の工事強行を見過ごすわけにはいかなかった。私はあたり前の市民感覚で住民自治の問題として、狛江市「武蔵野の路」計画をとらえているつもり。

〈みんなの土手の会〉は反対運動ばかりしているわけではない。見るにみかねて土手のごみ拾いもするし、今年環境週間には〔身近な川のいっせいい水質調査〕に初参加、狛江市の多摩川の水質検査をすることになった。できれば行政と一緒に多摩川と土手を市の財産として守っていきたいと、まちづくりシンポジウムなども企画している。

狛江市の土手には苧麻（カラムシ）の群落がある。万葉集に「多摩川（多麻河）に曝す手作さらさらは何そこの児のここだ悲しき」とうたわれた布は、このカラムシから糸を取って織ったといわれる。昨年、カラムシの繊維取りに挑戦しているが、今年もう少し上達して万葉の女たちに近づきたい。

## 甦れ！多摩川

## ■野川を行く

山 道 省 三

野川は多摩川の左支川としては最も大きい流域面積を持つ。野川の支川である仙川ともども約20km程の川である。

野川の大きな特徴は、武蔵野台地の崖線(ハケ)に沿って流下し、崖下からの湧水がその主な水源になっている点にある。水源は国分寺市の日立中央研究所の池を流頭に、昭和45年頃の調査では、約70ヶ所から出る湧き水を集めて、世田谷区玉川(二子玉川駅)で多摩川に合流していた。ところが、この20年あまりの間に湧水の枯渇や川への流入カットが著しく、流量が極めて少なくなった。昨年の夏には中流部で全く干上ってしまった河床が見られた。湧水の量はその時期の降水量に左右されるとするが、流域の市街化に伴ない降雨が地下に浸透しなくなったことや、せっかくの湧水が下水道にとり込まれてしまうことも大きな要因である。

野川の河川改修はすでに戦前から行なわれ、昭和50年頃から本格的に時間雨量50mm対応の河道整備が進められるようになる。護岸は緑化ブロックを用い、通常のコンクリート張から一步脱したものの川原へはなかなか降りにくく、全川ネットフェンスに囲まれていると言っても過言ではない。

近年、東京都は「いこいの水辺事業」として数ヶ所で親水化事業を行なっている。しかしなが

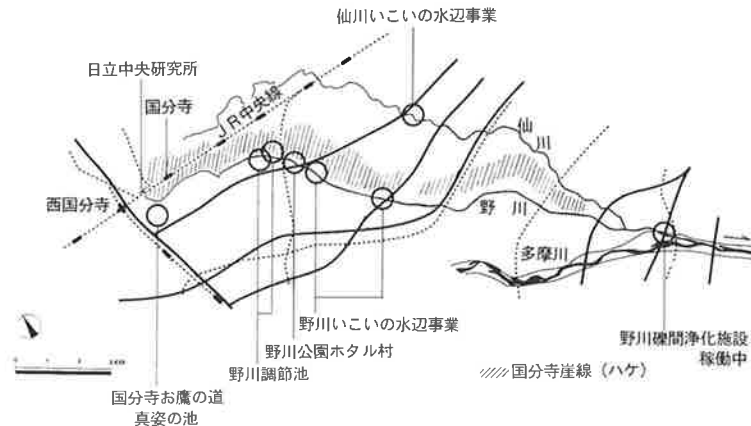
ら野川の原因風景との調和や川の生きものにやさしい川づくりとしては課題が多い。

野川の流域には、野川をいい川にしようとする住民団体が多い。去年の夏、こうした団体が一同に会し「野川ネットワーク」をつくり、野川の自然を守っていくための意見や情報交換を行なうこととなった。また中上流地域では、住民による湧水の保全を目的とした「水みち」調査が広範に行なわれている。井戸や湧水点の調査に加え、地元の人からの聞き取り調査が主であるが、地下水の様子が少しづつ分ようになってきた。それに加え、井戸や湧水にちなむ民俗資料の収集にも興味深いものがある。その他、一斉水質調査、わんぱく夏祭り、ホタル祭り、自然観察会など多彩な活動が見られる。

住民によるこうした動きは、長い活動を通して川とは何か、どうしたら野川が甦えるかについて十分に知り尽し、自らの手で回復していこうとする情熱の表現のようだ。そして、川と住民との間に新たな関係をつくり、地域文化として育てていこうとする姿勢が感じられる。

野川には相変らず河川改修と自然環境や景観の問題、新たな調整池の問題、下水処理場建設の問題などが内在している。しかしながら、こうした常に川や流域の環境に目をこらしている人達がいれば、今までとは異なった展開となるような気がする。河川管理者もこうしたさまざまな情報や活動を生かし、今後どう川を管理していけば良いのか同じテーブルで考える時期だと考える。

野川概況図



## 財団からのお知らせ

# 《多摩川およびその流域の環境浄化に》 《関する調査・試験研究募集－第二次－》

平成4年度第一次研究助成選考結果は下記のとおりです。学術研究6件、一般研究4件が選考されました。

本年度継続研究を含めても、本年度助成金枠に余裕がありますので、第2次募集を致します。応募についての詳細は財団事務局までご連絡下さい。

公募締切日 平成4年7月31日  
 問い合わせ先 〒150 東京都渋谷区渋谷1-16-14 (渋谷地下鉄ビル内)  
 電話 (03) 3400-9142 (財)とうきゅう環境浄化財団

## 〈第一次研究助成選考結果〉

研 究 課 題	代表研究者	所 属
(学術研究)		
●多摩川およびその流域の都市化と環境保全	中 井 達 郎	(財)日本自然保護協会 研究部長
●住民のための多摩川環境情報の利用提供システムの研究	生 田 茂	東京都立大学教養部教授
●多摩川河口域の底質中での石油化学物質の微生物による分解浄化に関する研究	村 上 昭 彦	東京農工大学物質生物工 学科教授
●多摩川流域における魚類民俗学に関する研究	秋 篠 宮 文 仁	山階鳥類研究所総裁
●多摩川上流域の沢水組成に及ぼす大気降水物の影響	鶴 見 実	東京工業大学大学院総合 理工学研究科助手
●多摩川流域における陸上動物の生態学的研究(Ⅱ) －自然指標として昆虫類(蝶・蛾・甲虫・アリ類)－	三 島 次 郎	桜美林大学教授
(一般研究)		
●「市民の手による浅川、矢川、野川の水質合同調査と水質表現の研究」	大 竹 千 代 子	国立衛生試験所研究員
●「水みちマップ」作成の為の調査研究(その2)野川流域の湧水と地下水の流れの関係について	神 谷 博	三多摩問題調査研究会 調査部長
●多摩川流域におけるトンボ類の生息場所の構造に関する研究	長 田 光 世	千葉大大学院
●野川における児童(親子)の水遊び場・川遊び行動についての実態調査	尾 辻 義 和	野川で遊ぶまちづくりの 会

## 多摩川流域の自然環境に関する催物一覧

日 時	場 所	行 事 名	主催者名・連絡先・(電話)
6月6日(土) 13:30~17:00	小金井市福祉会館	第7回シンポジウム -ゴミを出さない まちづくり-	小金井の環境を よくする連絡会 (0423-85-3622 佐野 強)
6月14日(日) 13:30~16:30	小金井市公会堂大ホール	環境子供フォーラム	同 上
6月21日(日) 9:30~	中河原 (JR南武線中河原駅改札口集合)	自然観察会 -初夏の野外博物館-	多摩川の自然を守る会 (0426-36-0902 柴田隆行)
<b>環境セミナー 「多摩川から環境問題を学ぼう」</b> コーディネーター/花岡 かおり (文教大学講師) 日 程/全10回毎回 P M 2:00~4:00 6月27日(土)「多摩川の魅力」、7月25日(土)「多摩川の環境問題」、8月22日(土)「暮らしと多摩川-台所から多摩川まで」、9月26日(土)「多摩川の自然を考えよう」、10月31日(土)「森林がはぐくむ多摩川」、11月28日(土)「多摩川の生態系-魚編」、12月26日(土)「多摩川の生態系-鳥編」、平成5年1月23日(土)「多摩川をめぐる論争-パネルディスカッション」、2月27日(土)「多摩川の自然保護」、3月27日(土)「憩いの場としての多摩川」 会 場/世田谷区玉川区民会館(東急大井町線等々力駅下車) TEL 3702-1131 (代) 料 金/全10回で1,000円資料代等(途中お休みされても返金致しません。) 申込先/直接会場へお越し下さい。 主 催/多摩川サケの会 後 援/世田谷区、(財)せたがやトラスト協会 問い合わせ先/世田谷区みずとみどりの課 TEL 3412-1111 内線2371 (担当 山下) ※途中で内容の変更がある場合があります。			

※参加方法等詳細は直接主催者にお問い合わせ下さい。

## 多摩川'92の発刊について

'91年からのテーマ“多摩川の新たな貌をめざして”に続くその2として、「多摩川で何が起きているか」について特集しました。

### 〈総集編〉

首都圏という大きな視点、多摩川沿川、秋川・平井川流域、浅川・大栗川流域、野川流域における都市計画、開発計画、自然環境保全等今起きている諸々の計画、構想を取り挙げてみました。ま

た、そうした動きに対し住民の意見についても併載いたしました。

### 〈資料編〉

東京都、建設省、流域自治体の都市計画、地域計画等につき、多摩川流域における資料を整理収録しました。

ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

- ・ 発 行 日 平成4年6月1日
- ・ 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団  
〒150 渋谷区渋谷1-16-14  
(渋谷地下鉄ビル内)  
TEL (03)3400-9142  
FAX (03)3400-9141

